

第6回 静岡市多文化共生協議会

1 日 時 2020年10月8日(木) 19:00~20:30

2 場 所 静岡市役所三階茶木魚

3 出席者 多文化共生協議会委員14名
全 高香、叢 潔、高畑 幸、TAN KAH XING、長阪 有美奈、野田 敏郎、
朴 惠善、BIHAN DAVID PIERRE、福井 ユミ、ホリウチ アリッセ イズミ、
山下 メリンダ、ラクスミ デワヤニ、李 栄元、李 重楼
事務局、静岡市国際交流協会

4 傍聴者 3名

- 5 次第
- (1) 開会
 - (2) 観光交流文化局次長挨拶
 - (3) 事務局より説明
 - (4) 協議
 - ①班 (教育)
 - ②班 (地域生活と防災)
 - ③班 (医療・介護)
 - (5) 事務連絡
 - (6) 閉会

田中 職員

ただいまから第6回多文化共生協議会を開催いたします。本日司会を務めさせていただきます国際

交流課の田中です。前回に引き続きよろしく願いいたします。開会にあたりまして、観光交流文化局

次長の望月よりご挨拶をさしあげます。

望月 観光交流文化局長次長

皆さん、こんばんは。観光交流文化局長次長の望月と申します。はじめまして。本日はお足元の悪いなか、6回目の静岡市多文化共生協議会にお集りいただき、ありがとうございます。本日東京都が確認した新規の新型コロナウイルス感染者数が248人と、なかなか収束の兆しが見えませんが、4月から9月の半年間で静岡市多文化共生総合相談センターへの相談件数が201件でした。内容は特別定額給付金から雇用に関する事まで多岐にわたるものです。この相談センターでは関係部署と協力して皆さんにわかりやすく伝わるよう努めているところです。この協議会では昨年の外国人住民の皆さんも安心して暮らしていただけるように、外国人住民の皆さんからご意見をいただいているところです。前回の提言書の中でいただいたご意見が、避難所における外国人被災者マニュアルですとか、自治会での加入のしおりの多言語化、こういったものに反映しております。外国人住民と日本人住民双方がお互いに尊重し、ともに暮らせる多文化共生社会の実現に移る提言書につながるように、本日も議論を活発化させていただくようお願いいたします。簡単ではありますが、挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いたします。

田中 職員

本日は、まず3グループに分かれ、事前に準備いただいた「私達にできること」を各自二つずつ発表させていただきます。その中から各グループで二つに決めて、全体発表で各グループ5分ずつ選んだ理由等を発表します。

興津 職員

お手元にアンケート調査票をお配りしています。来週から市内の18歳以上の外国籍の方々、無作為抽出（ランダム）で3,000人の方にお送りします。1万人のうちの3,000人ということで、皆さんにももしかしたら届くかもしれません。また、お近くの方にも届くかもしれません。日本語の調査票は郵便以外にもインターネットやスマートフォンで、日本語以外にも英語・中国語・韓国語・ベトナム語・ポルトガル語・スペイン語・ネパール語と（人数の）多い国籍の方の言語を選びましたが、スマートフォンで簡単に回答できるようなアンケートができました。今後の多文化共生を更に続けていくためにアンケートを行いますので、皆さんもご承知おきください。よろしくお願いいたします。

田中 職員

例年開催しております「静岡わいわいワールドフェア」ですが、コロナ禍ですけれども対策を取りながら、今のところ開催する予定です。日付は11月29日（日）、11月の最終日曜日に開催です。今回はステージパフォーマンス無し、飲食店は別の形で対応します。詳細はチラシ・ポスターができましたら協議会のメールで送りますので、ぜひ宣伝をお願いします。次は静岡市国際交流協会からのご案内です。

静岡市国際交流協会 多々良 職員

皆さんこんばんは、静岡市国際交流協会の多々良です。当協会では「言葉と文化のサポーター」という制度を設けておりまして、市内で色々な活動にご協力いただきたいということで、募集をしております。具体的な内容としては、例えば在住の外国人の支援として、無料の法律相談会での通訳サポート、災害が起こった際の通訳、日本語教室での日本語学習のサポートをお手伝いいただきます。市や生涯学習センターから出前講座の依頼があった際には、外国文化の紹介する講師として、サポーターの方を派遣

しています。そこで皆さんの経験とか色々な国の話を日本人の方に紹介していただきたい。最後に静岡市を訪れる外国人のサポート、今はコロナで途絶えています、韓国人の学生を受け入れたりとか、姉妹都市のストックトンの高校生を受け入れていただくことも募集しておりますので、ご興味のある方は2枚目にあります「登録申込書」にご記入いただき、私までご提出ください。または、後日国際交流協会にご連絡いただければと思います。よろしくお願ひします。

岡本 課長補佐兼多文化推進係 長

国際交流課の岡本と申します。皆さんの机の上にセロテープで貼り付けてありますが、静岡市ではこういった多文化共生協議会とか、市民の方に参加していただいて大切な意見をいただく審議会は、市のホームページに委員の方のお名前と所属・団体や肩書を簡単に載せています。今は去年の状態が載っていますので、今年もし変わってしましたら、できる範囲で結構ですので、右側の空欄にご記入ください。お帰りの際に事務局に提出してください。お願ひします。

田中 職員

では、ただいまより約1時間グループワークをお願ひします。各進行役の方をお願ひします。

グループ①【テーマ】教育

- (1) 自分のアイデンティティを大切にするため、母国語を学ぶことができる機会や場所をつくる
- (2) 高校、大学へ進学する際の、やさしい日本語や英語による進学ガイダンス、書類の多言語化、動画作成を行う
- (3) 子供と大人、いろいろな世代が各国の文化を学ぶ機会や場所をつくる

ラクスミ デワヤニ 委員

- ・ 学校のクラブなどで外国の文化を学ぶことができるのではないか
- ・ 年に1回ではなく連続して実施した方がよいのではないか

李 榮元 委員

- ・ 民族学校をカルチャーセンターとして活用できるのではないか
- ・ 言語だけではなく、文化や食文化等も紹介できるのではないか

ビハン・ダヴィ・ピエール 委員

- ・ 場所の提供としてはオンラインスクールも考えられるのではないか
- ・ 文化の紹介を動画でできるのではないか

朴 惠善 委員

- ・ 交流館等の公の施設を活用した国際交流の授業ができるのではないか
- ・ 外国人のための大学入試ガイダンスのお手伝いができるのではないか

全 高香 委員

- ・ 子供の入学や各種手続きの際の翻訳のお手伝いができるのではないか
- ・ WEBサイトや動画を制作して流すことで理解が深められるのではないか
- ・ 場としては学校を活用できるのでは
- ・ 一度だけで終わるのではなく、継続性が大事

【まとめ】

1. 各国の文化について動画を制作して、学校教育の場で活用し、文化を継続的に紹介することができる

- ・ 各国の文化を紹介できるような動画を作る
- ・ 学校教育の中で各国の文化を学ぶ取り組みを始める
- ・ その中で動画やWEBサイトを制作、活用することで学生だけではなく、多くの方に知っていただける

2. 子供の進学や入学の際に、進学・入学ガイダンスのお手伝いや、各種手続きに必要な文書の翻訳、

多言語化によるサポートができる

- ・ 大学の入試についてはガイダンスがないようなので、窓口みたいなものがあればいい
- ・ 各種言語のサポートも求められる

3. 交流館等の公の施設や民族学校等の施設を活用して、母国語等の講座を行うなどをして、母国語

や文化を学ぶ場所を作ることができる

- ・ 場所の確保としては、交流館等は安く借りられるし、民族学校等も夜間や休日の使わない時間帯に

活用することができる

グループ②【テーマ】地域での生活と防災

- (1) 市民サービスの情報提供方法を見直し、デジタル化する
- (2) 町内会の分かりやすい情報と説明をつくる
- (3) 外国人が参加しやすい防災訓練を考える

山下 メリンダ 委員

町内会の催しは私も参加したいが、高齢の方ばかりで、運動会もただ見て応援してるだけ。外国人が

参加して何かメリットのある催しがあればよい。

フィリピン人の会で防災訓練やったらたくさん人が集まった。同じ国の人だと集まる。

例えば私は国際交流協会でフィリピン語の情報誌をやっている。防災訓練があれば載せてくれる。問題は情報誌が(必要な人のところに)届いていない。HPにも載せているのに。もし良かったら覗いてください。

TAN KAH XING 委員

学生の自分だったら防災情報・多文化情報等、外国人留学生に役に立つ情報を日本語の授業で宣伝できる。SNSで外国人の生活に役立つ情報を流すこともできる。静岡市のFacebookをフォローしているが、課別にバラバラな情報であまり関係が無いものが多いので流している。そこに多文化の情報をもっと載せたら。

李 重楼 委員

中国人留学生はWeChatのグループがあるので、そこで情報を共有できる。町内会に入りたくない、入っても何をするのか分からないという外国人が多いが、防災訓練に参加したい人は多い。IFC (International Friendship Community) という多国籍のサークルでは定期的にパーティーやBBQをするので、そこで情報をシェアできる。

野田 敏郎 委員

防災訓練に生徒を連れていくが、私の町内は比較的若い人も参加しているが、参加人数が少ない。一年に一回か二回はみんな出ましようとなれば活性化すると思う。一人一回は何かに参加することにする。

SNSはグループになりやすい。これが^{せんてん}宣伝・^{なかま}仲間を集めることの一つの^{かぎ}鍵になりそう。

^{がいこくじんむ}外国人向けの^{たぶんかきょうせいじょうほう}多文化共生情報がやさしい^{にほんごとう}日本語等で載っていればFBも活用してくれるのでは。^{ぼうさい}防災
^{くんれん}訓練にも^{きんか}参加してくれるかも。

田中 職員

言葉が同じという括りでお願ひすると^{きんか}参加しやすいかも。ターゲットを^{しぼりこ}絞り込んだSNSがあれば良いと
いうことですね。

グループ③【テーマ】医療・介護

- (1) ^{がいこくじんかんじや}外国人患者が、^{いた}痛みをわかりやすく^{つた}伝えられるよう、イラストや^{しやしんい}写真入りの^{ゆびさし}指差し^{かいわ}会話ボードを
^{いかしんりようじよ}医科診療所、^{しかしんりようじよ}歯科診療所に置く
- (2) ^{いかしんりようじよ}医科診療所、^{しかしんりようじよ}歯科診療所の^{りすと}リストや^{けんこうしんだん}健康診断について、^{たげんご}多言語の^{じょうほう}情報を用意する。
- (3) ^{がいこくじん}外国人の^{かいごたいおう}介護対応の^{じゅうじつ}充実を図るため、まずは、^{がいこくせき}外国籍の^{かいごじゅうじしや}介護従事者の^{ねつとわ}ネットワーク^{おこな}づくりを行
う

[前回の提案]

- A. ^{いた}痛みを^わわかりやすく^{つた}伝えるための^{ゆびさし}指差しボード。
- B. ^{けんこうしんだんとうがいこくじん}健康診断等外国人がかかりやすい^{いしや}医者^{りすと}のリスト。
- C. ^{かいご}介護の^{じょうほうていきょう}情報提供と^{がいこくじん}外国人の^{かいごたいおう}介護対応の^{じゅうじつ}充実をはかるために、^{がいこくせき}外国籍の^{かいごじゅうじしや}介護従事者のネットワークを
つくる。

[上記のために私達ができること]

福井 ユミ 委員

A.外国人の感覚・目線で伝えることができるので、(指差しボードに) どういうイラスト・写真を入れる

かという話し合いには協力できる。自分は今、感覚的に日本語がわかるので。絵と数値化した痛みの度合

いの記入も必要。紙は忘れてたりなくしたりするので、携帯のアプリで見られれば、忘れることもない。

B.専門病院に行くにはクリニックで紹介状を書いてもらわなければいけないが、クリニックで断られて

しまう例がある。SAME が持っているのは言語ができる病院のリストで、しかも必ずしも喋れると

は限らない。今年は健康診断も ZOOM で人数限定でやる。

C.介護の世界で実際に働いている人たちがどのように苦しんでいるのかを知って、それをどうサポート

してあげられるかというネットワークを作りたい。介護の現場は未だにほとんどが紙で手書きの世界で

IT化しているところが少ない。どのような所で何が大変でどういう情報をもったら働きやすくなる

のかということ座談会等で聞きたい。コロナで工場で雇い止めにあった人で、まだ働きたいが工場

では受け入れない40代50代の人がたくさんいる。ハローワークがやっている介護の外国人用初任者研修

を東部・西部はやっているが、中部だけやっていない。西部には初任者の資格を持って働いている人が

既にたくさんいる。

長阪 有美奈 委員

A.まずはカード式が良いと思う。表は患者さん用の絵やイラスト、裏は医者用のキーワード。

B.日本の医療の受入れ方について講習を行ったり、動画を作成する。

叢 潔 委員

A.「お薬手帳」のような大きさのものなら、かかりつけ医やドラッグストアに行く時も持っていける。

日本語でもよい。

高畑 幸 委員

A. 静岡市だけではなくて他の市町村にあげても喜ばれるかも。

本人が持ち歩くなら手帳のように小さいサイズ（身体の部位→痛さの表現）。

紙媒体だけではなくて、WEB スタイルも、QR コードの付いたステッカーをドラッグストア等に貼ってもらう。

B. フィリピンでは輸血したい時、輸血を提供してくれる人も一緒に連れていかななくてはいけない。国によって医療の受け方は様々。

C. 活躍している介護職員のミーティングを一度して、既に介護の世界で働いている人から話を聞く。

→ 新しく働いてみたい外国人に仕事内容を紹介をしてもらう。最初の各事業所への声掛けだけ静岡市でやってもらえれば、そこからネットワークを作れる。

ホリウチ アリッセ イズミ 委員

B. 病院でのトラブルを防ぐために、日本の病院に行く前に保険証を持っていくとか、お金を何割払うとかポルトガル語のマニュアルのようなものはありますか？

興津 職員

B. 外国人の方が自分で持っていくという方法もある。SAME（国際交流協会）が持っている外国人患者を受入れている医院のリストは更新されていない。

【全体まとめ】

グループ①

李 栄元 委員

教育のテーマで話が出ました。

【これまでの提言】

1. 自分のアイデンティティを大切にするため母国語を学ぶことができる場所や機会をつくる。
2. 高校・大学へ進学する際、やさしい日本語や英語による進学ガイダンス、書類の多言語化、動画作成を行う。
3. 子どもと大人、色々な世代が各国の文化を学べる機会や場所をつくる。

【私達ができること、行政にお願いできること】

各国の文化を紹介できるような動画をつくる。学校教育の中で子どもたちに年に一回5年生が社会科の中で各国の文化を学ぶ取り組みがあって、それを動画で編集して学校だけではなく、WEBに載せたりして幅広い方達に見てもらう。

大学の入試、保育園・幼稚園入園の手続き書類、行政書類を各国の言葉で翻訳する。

大学の入試ガイダンスと共に、そこから相談窓口に入っていけるような仕組みが有ったらよい。

母国語を学ぶ機会・場所を作る。生涯学習交流館を活用してカルチャースクール・講座を積極的に行う。

朝鮮学校は夜子どもがいないので、そういう施設を利用するのも良い。

グループ②

李 重桜 委員

地域生活と防災について私達ができることは、SNSを通じて互いに助け合う。例えば静岡に来たばかりの人は言葉が通じなくても自国のSNSで防災知識を共有して必要な情報を取ることができる。外国人が集まりやすいコミュニティー・イベントを広げる。一人でも安心して暮らせる街をつくる。マイノリティーのために集まりやすい活動を広げる。

グループ③

福井 ユミ 委員

A.医療・介護で私達にできることは、痛みが通じにくいので、指差し会話のカードを作る。ワークショップを企画、漫画を描いてもらい冊子作製、医療機関に配ったり、できたら外国人が持ち歩いて必要な時に使ってもらおう。また、QRコードにしてドラッグストア等に貼ってもらおう。

B.外国人を差別したりお断りの医院があるため、外国人ウエルカムの医療機関をリスト化。

C.今、実際介護で働いている外国籍の人たちが今後働き続けるために、一度ストレス発散のワークショップ

(愚痴り会)を企画し、働きやすい環境を作る会にする。次に介護で働きたい人向けに、介護職

の説明をする会に発展させる。また、第一次出稼ぎブームの人達が介護が必要な時代になってきたので、

介護を申請する際にどこでどういう手続きが必要かを説明する講座を企画する。

田中 職員

皆さん大変貴重なご意見をありがとうございました。どのグループからも SNS・QR コード・動画等デジタルな話題が出たことが特徴的だと思いました。次回7回目の日程は来年1月を検討しております、候補は1月21日（木）、22日（金）、28日（木）です。都合が悪い方は挙手をお願いします。では、1月21日（木）で設定します。場所は同じ茶木魚を予定しています。

以上